

好業績に沸く化学業界に追い風がやむXデー」が迫っている。米国で今秋から、割安なシェールガスを原料とする工場が続々と動き出すためだ。過剰だった国内設備を5年かけて1割ほど減らした時期に海外勢のトラブルが頻発し、日本メーカーは市況好転の恩恵を受けていた。かりそめの好況はあと半年で終わり、実力が再び問われる。「業界として高いレベルの成績を残すことができた」。日本化学工業協会（東京・中央）の石飛修会長（住友化学会長）は22日の記者会見で、2016年度をこう振り返った。市況はかりでなく、原油・為替の相場が輸出競争力を保てる水準にあったためだと語った。

好況の化学に迫るXデー

米で大型設備、秋から逆風

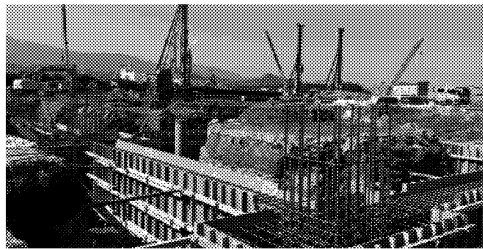
世界の主なエチレン増産計画	
地 域	
企業(稼働年)	年産能力(万ト)
中国・浙江省	
中国石油天然気集団など合弁(2016)	100
サウジアラビア・ジュベイル	
サウジアラムコなど合弁(2016)	150
米テキサス州	
米ダウ・ケミカル(2017)	150
米シェブロン(2018)	150
米エクソンモービル(2018)	150
台湾塑膠工業(2018)	115
米ルイジアナ州	
南アフリカ・サゾール(2019)	155
米アクシオールなど合弁(2020)	100
日本全体の生産能力	615.5

強み磨き供給過剰に備え

17年3月期は三井化学、東ソー、旭化成などが過去最高の純利益をたたき出した。ただ、専門家の間では市況が逆風に変わるXデーがささやかれる。17年秋。半年後だ。まず、米ダウ・ケミカルが9月までに、シェールガスから採れる安価なエタンで化学品の基礎原料であるエチレンを製造

18年以降も、米エクソンモービルなどの新規稼働が続く、17と20年の世界の主な増産は年800万トを超える。石飛氏は会見で「例え工期の遅れがあっても、シェール陣営は着実に出てくる」と警戒感を示した。日本のエチレン設備の稼働率は現在、96と97を保っているが、供給過

18年以降も、米エクソンモービルなどの新規稼働が続く、17と20年の世界の主な増産は年800万トを超える。石飛氏は会見で「例え工期の遅れがあっても、シェール陣営は着実に出てくる」と警戒感を示した。日本のエチレン設備の稼働率は現在、96と97を保っているが、供給過



住化が新設するアミノ酸の工場（愛媛県新居浜市）

チャップマン社長は19日、札幌市で開いた石油化学業界の国際会議で、メキシコ湾岸で建設中のポリエチレン設備についてこう宣言した。日本勢はどう向き合うのか。愛媛県新居浜市の住化の工場。4月下旬に訪れると、カーン、カーンと

一方で、三井化学や東ソーは最近、ポリプロピレンなど汎用品（コモディティ）への再投資を決めた。これも単純な増産ではなく、生産効率を高めて米国勢が日本やアジアの得意先を奪うのを防ぐ狙いがある。ただ、石飛氏は会見で「各社とも事業構造の転換を進めているが、まだ万全ではない」と指摘した。住化も市況の好転を理由に、17年3月期中に詰める予定だった合成繊維原料事業のリストラを先延ばししている。業界全体を見渡しても外部環境が悪かった時期と比べて大胆な事業再編は減った。好業績ゆえの緩みはないか。Xデーは刻一刻と迫っている。（佐藤浩実、小柳優太）

ビジネス TODAY